

## 地球環境問題

徐孝源

慶應義塾大学

### 本文の要約

我々は経済成長を成し遂げ、豊かな生活を送っている反面、地球温暖化、酸性雨など様々な環境問題に直面している。持続的な経済成長を図っていくためには、経済と環境の両方を発展させていくことが重要であり、環境問題の解決は不可欠である。環境問題を解決するため、環境保護の側面から政策的・技術的要因について考え、環境問題の解決策の方向性について模索していく。そして、環境問題を解決するため、我々が身近なところで実践できる取り組みについても述べていく。

### 本文

我々は経済成長を成し遂げ、豊かな生活を送っているが、その反面、地球温暖化、海洋汚染、酸性雨など様々な環境問題に直面している。今後も経済成長を成し遂げ、持続的に経済成長を維持していくためには、経済と環境の両方を発展させていくことが重要であり、環境問題の解決にも力を入れていくことが重要であろう。本稿では、私が考える地球的問題である環境問題について述べ、地球環境問題の解決策について模索していきたい。

人間が活着ている上で、経済活動というのは欠かせないものである。我々は自然を破壊しつつ、経済を発展させてきたが、目覚ましい経済成長の一方、環境問題に直面している。環境問題は人類の生存に関係しており、環境破壊は人類の危機だとも言えるだろう。我々の生活領域である環境が保存されてからこそ経済成長もあると言え、環境を保護しながら経済を成長させていくことが重要であると考えられる。環境を保護するためには、我々はどうのような政策的・技術的要因を考慮する必要があるのだろうか。

まず、政策的要因について考えていきたい。政策的側面では、国家間の環境協約などを通じ、実現可能な目標を設定し、その目標達成に向かって着実に実践していくことが重要ではないだろうか。例えば、1997年の京都議定書は国家間の環境協約が締結されたことに非常に大きい意味があるが、非現実的な削減目標設定により、目標達成のどころか、逆に基準年に対して排出量が上昇した国もあることが現状で、目標設定の意味が薄れていっていると思われる。また、すべての国が環境協約に締結したわけではなく、参加を見送っている国もあることが問題となっている。

このようなことを踏まえ、より現実的な削減目標を設定し、その目標達成に向かって様々な働きをすることが重要で、先進国と発展途上国を含めた国際協調体制を作ることが重要であると、私は考える。経済発展を遂げてきた先進国に道義的責任が強調されるが、今経済を発展させている発展途上国にも責任はある。先進国と発展途上国を含めた国々が、環境協約の締結に積極的に参加し、各国の対立する意見をまとめ、温室効果ガス削減の具体

的方法などについて話し合っていくことが大事であろう。

そして、技術的要因である。技術的側面においては、我々の生活から出る廃棄物などのゴミをバイオマスエネルギー資源へと変える技術を開発し、水力、太陽力、波力などの自然エネルギーの分野に投資して再生可能なエネルギーを利用できるようにするなどの技術を発展させていくことが重要であろう。そして、最も重要なことは、先進国は途上国に環境に配慮できるような設備や技術などの支援を通して援助し、途上国も環境問題に自発的に参加し、先進国と途上国を含めた各国がお互い協力し合いながら、積極的に環境問題に取り組んでいくことであろう。

先ほども述べたように、地球環境問題は、ある一国の問題ではなく、国際社会で解決していかなければならない重要な問題である。しかし、世界規模での急速な人口増加、人口増加に伴う経済発展は、地球環境への負担を増大させ、地球環境問題への悪影響が懸念されている。地球環境問題を解決するため、世界的に環境問題を解決するための様々な努力がなされており、先ほど述べた政策的・技術的要因のほかにも様々な意見が存在するだろう。その中でも、地球環境問題のため、身近なところから実践できる取り組みについて知ることは重要であり、我々に実践できる取り組みに参加していく必要があるだろう。

地球環境問題を解決するため、我々の身近なところで行われる取り組みについて述べていきたい。まず、日本における取り組みであるが、温室効果のあるフロンガスをできるだけ排出しないようにする取り組み、再生可能エネルギーなど新しい技術の開発に投資するなどの様々な努力が行われている。また、発展途上国に対する排出量削減への支援といったことにも取り組んでいっている。次に、産業界の取り組みであるが、地球温暖化に大きな影響を与えているゴミ問題を解決するため、地球環境に優しい新材料の開発に力を入れており、環境会計の導入、環境関連の情報開示などの様々な活動が行われている。

そして、個人の取り組みであるが、リフューズ (Refuse)、リデュース (Reduce)、リユース (Reuse)、リサイクル (Recycle)、リサイクル (Recycle) の4 R運動が推進され、地球環境問題を解決するため、生活ゴミを減量し、スーパーでのレジ袋の使用を控えるなど、我々個人一人ひとりも様々な努力をしている。

このように、国家間の環境協約が締結された京都議定書などの国際的な取り組み、産業界における取り組みなど、環境問題解決へ向けて様々な働きかけが行われている。地球環境問題の解決に向けて様々な取り組みが行われている中、地球環境の情報を一般の人に分かりやすく伝え、我々の身近なところから地球環境問題解決に向けて実践していくことが重要であると考え、実際に実践案について考えてみた。

地球環境問題を解決するため、我々個人ができることは少なくないはずである。しかし、個人一人ひとりが持っている地球環境問題を解決するための情報が不足していることが現実で、我々個人にできることが少なくなっているのではないかと感じる。私は、地球環境の情報を一般の人に分かりやすく伝えるため、一般の人が主体となって地球環境の情報を載せた情報誌を作り、一般の人々に地球環境の情報を発信していくことが重要であると考

える。具体的には、地域での環境情報誌を考えており、地域の人々が主体となり、地球環境の情報を載せ、その地域において実践できる地球環境解決の情報を共有していくことである。

例えば、私の場合、プラスチックや弁当容器も可燃袋に入れて捨てるなどゴミ処理にあたってよく分からないことが多かったが、日本人の方にゴミ処理について説明を聞いてから、現在は指定日にきちんとゴミを捨て、分別もしっかりとしている。もし、ゴミ処理のコツをテーマとした情報誌を発刊すると、同じ地域の身近な話であるため、共感しやすく、すぐ実践できると思う。

環境問題である地球温暖化の原因の一つでもある二酸化炭素を低減させることも重要であるが、二酸化炭素を吸収させる活動も重要であるだろう。二酸化炭素を減らし、より良い自然環境で暮らすために、地域の人々が協力し、その地域に木を植えるといった活動の呼びかけを地域の情報誌に載せ、地球環境問題を解決するため、地域の身近なところから実践していけるような取り組みが重要である。

地域での環境情報誌は、地域の人々が主体となり、地球環境の情報や地球環境に関する活動の呼びかけを載せるため、その地域において実践できる地球環境解決の情報を共有していくことができる。地球環境問題を解決するため、地域の身近なところから実践していけるような取り組みが重要であり、このような取り組みが地球環境問題の解決へとつながるだろう。

環境問題はある一国の問題ではなく、すべての国が解決していかなければならない地球的問題である。先進国は発展途上国に責任を転嫁したり、発展途上国は先進国に責任を転嫁したり、もしくは、次の世代に責任を転嫁したりするなど、誰かに責任をなすりつけるのではなく、全ての国、全ての人が責任を持ち、協力して解決していくべき問題であると考える。

今回、私が考える地球的問題として環境問題について述べたが、我々の社会には、貧困、戦争、経済格差、環境破壊など解決していかなければならない様々な問題が存在する。このような様々な社会問題は、忙しい現代人にとって忘れがちな問題であるが、様々な社会問題を見逃さず、個人一人ひとりが問題の解決に向けて積極的に取り組んでいくことが重要であると言える。

#### 参考文献、資料

- ・ <<http://warming.hachinoko.jp/>>(参照 2012-9-19)
- ・ <<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/gakusyu/mondai.htm>>(参照 2012-9-19)
- ・ <<http://www.seidokanri.jp/index.html>>(参照 2012-10-3)
- ・ <<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/cop.html>>(参照 2012-10-8)